

## 「Q&A 実例 交通事故捜査における現場の疑問〔第2版〕」のお詫びと訂正

下記箇所において、誤りと、誤解を招く記述があったため、お詫びして訂正いたします。

<148 頁上から 16 行目～同頁末尾までを、以下に差し替える>

そこで、まず、分母となるものとして、体重 70 キログラムに体内分布係数で被疑者に最も有利な数値を用いるとして、通常であれば、体内のアルコール保有量が少なくなるように計算するのであるが、追加飲みに係る分量を計算するのであるから、これは多い方が被疑者に有利になる。

そこで、この場合、0.60 の係数を用いる。

それで計算すると、

$$70 \times 0.60 = 42$$

となり、これで先の 14 を割ると

$$14 \div 42 = 0.333$$

となり、これが血液 1 ミリリットル中の血中アルコール濃度となるので、これを呼気 1 リットル中のアルコール濃度に換算すると、

$$0.167 \text{ ミリグラム}$$

となる。

そして、これが飲酒検知直前であれば、飲酒後の経過時間に基づく代謝による減少は 0 であるとし、そのままの数値を、飲酒検知結果から差し引くと、

$$0.5 - 0.167 = 0.333$$

となり、この

$$0.333 \text{ ミリグラム}$$

という数値が、被疑者の飲酒検知時における追加飲みのアルコール分を除いた値となる。